

学校運動部への所属経験が 大学生のアイデンティティに及ぼす影響

大隈 節子

**A study on influence that the experience that belonged to the sports club
in a school gives to identity of university students**

Setsuko OKUMA

1. はじめに

青少年のスポーツライフ・データ¹⁾によれば、2010年度の青少年のスポーツ実施状況は依然として非実施者と高頻度実施者との間で二極化の傾向が続いている。また青少年のスポーツ活動集団への加入状況において、学校での運動部やサークルへ加入している割合は48.9%であり、地域のスポーツクラブ(10.6%)、民間のスポーツクラブ(6.4%)に比べて高い割合を占めてはいるものの、その一方で集団には所属せずに運動・スポーツ活動を実施している者の割合も少なくない現状が明らかになっている。年次推移で比較してみても、中学校期においては生徒数の減少に伴い運動部加入者数は減少しており、高校期においても激減していた2000年の34.1%に比べ加入率の向上は認められるものの、高校進学を期とした運動部活動離れが依然として続いている。このように青少年のスポーツ活動の場としての学校運動部はますます縮小する傾向にある中、学校運動部の存続する価値について再度検討の必要があるように思われる。

一方、スポーツとアイデンティティに関するこれまでの先行研究は、鈴木ら^{2) 3) 4) 5)}による一連のスポーツ競技者のアイデンティティに関する心理学的研究、また日下⁶⁾による研究が散見されるものの、アイデンティティの発達時期を視野に入れた学校運動部の在り様についての詳細な検討は行われていない。

そこで、本研究では生涯スポーツの概念を視野に入れた上で、各時期での学校運動部への所属経験が大学生のアイデンティティに対しどのような影響を及ぼしているのか、その実態を明らかにするために、EPSI得点を用いて実施したアンケート調査をもとに検討することを目的とした。

2. エリクソンのライフサイクル論とEPSIについて

エリクソンのライフサイクル論とは、人の一生の人格形成が単に閉じた個人の問題なのではなく、人間関係や社会とのつながりの中で段階的に行われるものとする漸成発達理論である。

エリクソンは、人生における心理・社会的な発達段階を8つにわけ、そのすべての段階には達成すべき課題が設定されており、その課題達成に向けた様々な危機の経験を乗り越えて、人は次の段階へと漸次移行していくことを形式化した。また、その中でこの5段階目「青年期」にあたる大学生の時期には帰属する集団や社会の中で自分という存在を明確に理解し、人生をどう生きたいかをしっかりつかんでいる感覚の達成にむけ、「アイデンティティ確立対アイデンティティの拡散」が設定されており、その中で集団や社会への忠誠心が獲得されていく。つまり、人の人生は決して一様なのではなく、人は絶え

ず変化していくのであり、青年期の時期にあたる大学生もまたこの課題達成に向け、様々な危機経験を乗り越えながら次の段階である親密性の課題へと移行していくことになる。尚、各時期に獲得する事柄は以下の表 1 のとおり段階ごとに定められており、具体的な各時期の課題と獲得する事柄、さらに EPSI との関連性については表 2 の通りとなっている。

表 1 アイデンティティ下位尺度内容

1. 信頼性：他者を含めた周りの世界に対する信頼感、および自己への信頼感（自信）
2. 自律性：自らが自由に選択し決断できるという有能感をもち、自分に対して疑惑や恥を感じていないこと
3. 自主性：自発的かつ意欲的にものごとに取り組む、自分がよいと思う行動に責任を持つとする心構え
4. 勤勉性：目標を実現するために自分の技能を発揮することによる、自尊感情を伴った効力感
5. 同一性：自分という存在を明確に理解し、人生をどう生きたいかをしっかりつかんでいる感覚
6. 親密性：自分を見失うことなく、他者と親密な付き合いができ、孤独感を感じないでいられる状態
7. 生殖性：次の世代を世話し、育成することに対する関心とそのことへエネルギーを注いでいるという自信
8. 統合性：自分の人生を自らの責任として受け入れ、死に対して安定した態度をもっていること

表 2 エリクソン心理社会的段階目録検査（EPSI：Erikson psychosocial stage inventory）

No.	ライフステージ	各ライフステージでの課題	獲得する事柄	得 点
1	全 体	—	—	EPSI 総合得点
2	乳児期	基本的信頼 対 不信感	希 望	信頼性得点
3	幼児期前期	自律性 対 恥・疑惑	意志力	自律性得点
4	幼児期後期	積極性 対 罪悪感	目 的	自主性得点
5	学童期	勤勉性 対 劣等感	自己効力感	勤勉性得点
6	青年期	同一性 対 同一性拡散	忠誠心	同一性得点
7	成人期初期	親密性 対 孤立	愛	親密性得点
8	成人期後期	生殖性 対 自己停滞	世 話	世代性（生殖性）得点
9	老年期	統合性 対 絶望	英 知	統合性得点

本稿で使用する EPSI はエリクソンによって定式化された自我の発達段階図式に対応した心理社会的発達課題の達成状況を測定評価するための質問紙検査である。原版として開発したのはオーストラリアの Rosenthal ら（1981）であり、それを中西⁷⁾らが日本語版へ改訂している。各段階は 7 つの質問が設定されており、全体で 56 問に対し、5 つの選択肢「全くあてはまらない」を 0 点、「とてもよくあてはまる」を 4 点として、1 つ当てはまるものを選えらんでもらう形式をとっている。尚、* のついた項目については逆転項目であり、配点が「全くあてはまらない」が 4 点、「とてもよくあてはまる」が 0 点となっている。

表 3 質問項目

信 頼 性

質問 1	信頼性①	* 私に、もっと自分をコントロールする力があればよいと思う
質問 3	信頼性②	* 良いことは決して長続きしないと、私は思う
質問 5	信頼性③	私は、世間の人たちを信頼している
質問 7	信頼性④	周りの人々は、私のことをよく理解してくれている
質問 9	信頼性⑤	* 私には、何事も最悪の事態になるような気がしてくる
質問 11	信頼性⑥	世の中は、いつも自分にとってよい方向に向かっている
質問 13	信頼性⑦	* 周りの人たちは、私を理解してくれない

自 律 性

質問 15	自律性①	* 私は、何事にも優柔不断である
質問 17	自律性②	* 私は、決断する力が弱い
質問 19	自律性③	* 私は、自分という存在を恥ずかしく思っている
質問 21	自律性④	私は、自分で選んだり決めたりするのが好きである
質問 23	自律性⑤	* 私は、自分の判断に自信がない
質問 25	自律性⑥	* 私は、この世の中でうまくやっいていこうなどとは決して思わない
質問 27	自律性⑦	私は、物事をありのままに受け入れることができる

自 主 性

質問 29	自主性①	* 私には、みんなが持っている能力が欠けているようである
質問 31	自主性②	* 私は 誰か他の人がアイデアをだしてくれることをあてにしている
質問 33	自主性③	私は、多くのことをこなせる精力的な人間である
質問 35	自主性④	* たとえ本当のことであっても、私は否定してしまうかもしれない
質問 37	自主性⑤	* 私は、リーダーというよりも、むしろ後に従っていくほうの人間である
質問 39	自主性⑥	* 私は、いろんなことに対して罪悪感を持っている
質問 41	自主性⑦	私は、してはいけないことに対して、自分でコントロールできる

勤 勉 性

質問 43	勤勉性①	私は、いっしょうけんめいに仕事や勉強をする
質問 45	勤勉性②	私は、自分が役に立つ人間であると思う
質問 47	勤勉性③	私は、目的を達成しようとがんばっている
質問 49	勤勉性④	私は、自分の仕事をうまくこなすことができる
質問 51	勤勉性⑤	* 私は、物事を完成させるのが苦手である
質問 53	勤勉性⑥	* 私は、のらりくらりしながら多くの時間をむだにしている
質問 55	勤勉性⑦	* 私は、頭を使ったり、技術のいる事柄はあまり得意ではない

同 一 性

質問 2	同一性①	私は、自分が何になりたいのかをはっきりと考えている
質問 4	同一性②	* 私は、自分が混乱しているように感じている
質問 6	同一性③	私は、自分がどんな人間であるのかをよく知っている
質問 8	同一性④	* 私は、自分の人生をどのように生きたいかを自分で決められない
質問 10	同一性⑤	* 私は、自分のしていることを本当はわかっていない
質問 12	同一性⑥	私は、自分が好きだし、自分に誇りをもっている
質問 14	同一性⑦	* 私には、充実感がない

親 密 性

質問 16	親密性①	* 誰かに個人的な話をされると、私は当惑してしまう
質問 18	親密性②	私は、特定の人と深いつきあいができる
質問 20	親密性③	私は、あたたかく親切な人間である
質問 22	親密性④	* 私は、もともと 1 人ぼっちである
質問 24	親密性⑤	私は、他の人たちと親密な関係を持てている
質問 26	親密性⑥	* 私は、他の人よりも目立つのを好まない
質問 28	親密性⑦	* 私は、他の人たちとなかなか親しくなれない

生 殖 性

質問 30	生殖性①	私は、後輩や部下のめんどうをよく見る
質問 32	生殖性②	私は、将来に残すことのできる業績をあげつつある
質問 34	生殖性③	私は、よい親である（親になる）自信がある
質問 36	生殖性④	* 私は、後輩や部下を指導するのが苦手である
質問 38	生殖性⑤	* 私は、自分を甘やかすところがある
質問 40	生殖性⑥	* 私は、親であること（親になること）が不安である
質問 42	生殖性⑦	私は、未来を担う子どもたちを育てていきたいと思う

統 合 性

質問 44	統合性①	* 私は、自分が死ぬことを考えると不安である
質問 46	統合性②	私のこれまでの人生は、かけがえのないものだと思う
質問 48	統合性③	* 私は、生きがいをなくしてしまっている
質問 50	統合性④	私は、悔いのない人生を歩んでいる
質問 52	統合性⑤	私は、自分の死というものを受け入れることができる
質問 54	統合性⑥	* 私には、もっと別の生き方があるのではないかと思う
質問 56	統合性⑦	* 私の人生は、失敗の連続のように思う

* の項目は逆転項目

3. 調査概要

- 1) 調査日：2011 年 10 月 3 日～7 日
- 2) 調査対象者：本学 1 年生を対象とした共通教育「スポーツ健康学実習Ⅱ」を履修した学生 562 名。
性別、所属学部の内訳は表のとおりである。

表 4 性別による内訳

性別	人数	パーセント(%)
男 性	348	62.1
女 性	212	37.9
合 計	560	100

表 5 学部による内訳

所属学部	人数	パーセント(%)
人 文 学 部	138	24.6
教 育 学 部	98	17.5
医 学 部	8	1.4
工 学 部	193	34.5
生物資源学部	123	22
合計	560	100

- 3) 調査方法：集合法により実施し、回答は無記名で実施時間は 20 分間程度でおこなった。
- 4) 質問紙の構成：フェースシート、大学生活について、授業時間外の過ごし方について、過去のスポーツ活動について、EPSI 項目尺度について
- 5) 分析方法：SPSS により、各検討項目について t 検定を行った。以下において「有意差がある」と示した項目は危険率 5% 以下で有意な差があったものである。

4. 調査結果

1) 運動部への所属の有無による EPSI 得点の比較

① 小学校時のスポーツ少年団への所属の有無

小学校期のスポーツ少年団への所属の有無による各得点の比較をしたところ、有意に差があったの

は生殖性得点のみであり、その他の項目においては有意な差が見られなかった。生殖性得点については、所属経験者の平均値が 13.7 である一方で所属未経験者の平均値は 12.7 点と所属経験者の方が 1.0 点ほど高い結果であった。

表 6 小学校時の運動部所属の有無による EPSI の比較

得 点	所属経験あり			所属経験なし			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
EPSI 総得点	22	117.7	24.3	84	117.1	25.3	-0.19
信頼性得点	22	13.4	3.7	84	13.8	3.9	0.84
自律性得点	22	14.5	4.1	84	14.3	3.9	-0.45
自主性得点	22	13.5	3.6	84	12.9	3.7	-0.66
勤勉性得点	22	14.7	3.8	84	14.7	4.6	-0.01
同一性得点	22	15.5	4.5	84	15.9	4.7	0.85
親密性得点	22	16.9	4.0	84	16.3	3.7	-1.10
生殖性得点	22	13.7	3.8	84	12.7	4.1	-2.05*
統合性得点	22	15.9	4.3	84	16.5	4.0	1.15

*:p <0.05

② 中学校時の運動部への所属の有無

中学校時の運動部への所属の有無における各項目の得点を比較したところ 7 項目において有意差が認められた。

自律性得点においては運動部経験者の方が 1.36 点高い結果であった。自主性得点では運動部経験者の方が 1.67 点高い結果であった。勤勉性得点においては運動部活動経験者の方が 1.55 点高い結果であった。同一性においては運動部活動経験者の方が 1.51 点高い結果であった。親密性得点においては運動部活動経験者の方が 1.02 点高い結果であった。生殖性得点においては運動部活動経験者の方が 1.45 点高い結果であった。EPSI 総得点においても運動部活動経験者の方が 9.24 点高い結果であった。

有意差の認められた 7 項目すべてにおいて運動部経験者の平均値の方が高いことが明らかになった。

表 7 中学校時の運動部所属の有無による EPSI の比較

得 点	所属経験あり			所属経験なし			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
EPSI 総得点	397	119.1	24.2	71	109.8	26.5	-2.92*
信頼性得点	397	13.6	3.7	71	13.1	4.1	-1.16
自律性得点	397	14.8	4.0	71	13.4	4.2	-2.59*
自主性得点	397	13.5	3.8	71	11.8	3.8	-3.41*
勤勉性得点	397	15.0	4.2	71	13.8	4.6	-2.12*
同一性得点	397	15.9	4.4	71	14.4	4.5	-2.66*
親密性得点	397	16.8	3.7	71	15.7	4.0	-2.08*
生殖性得点	397	13.5	3.9	71	12.0	4.2	-2.84*
統合性得点	397	16.1	4.1	71	15.6	4.1	-0.98

*:p <0.05

③ 高校時の運動部への所属の有無

高校時の運動部への所属の有無における各項目の得点を比較したところ 5 項目において有意差が認められた。

自主性得点においては運動部経験者の方が 1.15 点高い結果であった。勤勉性得点においては運動

部活動経験者の方が1.29点高い結果であった。親密性得点においては運動部活動経験者の方が0.87点高い結果であった。生殖性得点においては運動部活動経験者の方が1.09点高い結果であった。

有意差の認められた5項目すべてにおいて運動部経験者の平均値の方が高いことが明らかになった。

表8 高校時の運動部所属の有無による EPSI の比較

得 点	所属経験あり			所属経験なし			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
EPSI 総得点	300	119.4	24.4	159	114.0	25.5	-2.21*
信頼性得点	300	13.6	3.7	159	13.3	3.9	-0.75
自律性得点	300	14.7	4.1	159	14.3	4.1	-1.04
自主性得点	300	13.6	3.7	159	12.5	4.1	-3.05*
勤勉性得点	300	15.2	4.1	159	13.9	4.5	-3.10*
同一性得点	300	15.9	4.4	159	15.4	4.6	-1.31
親密性得点	300	16.9	3.7	159	16.0	3.9	-2.33*
生殖性得点	300	13.6	3.9	159	12.5	4.2	-2.83*
統合性得点	300	15.9	4.1	159	16.2	4.1	0.77

*,p <0.05

2) 役職経験の有無による比較

① 小学校時の役職経験の有無による比較

小学校時のスポーツ少年団での活動経験者のうち、キャプテン経験者と役職未経験者で各項目の比較を行ったところ、4つの項目において有意な差が見られた。

勤勉性得点においてはキャプテン経験者の平均値の方が2.81点高い結果であった。親密性得点においてはキャプテン経験者の平均値の方が2.15点高い結果であった。生殖性得点においてはキャプテン経験者の平均値の方が1.77点高い結果であった。また、EPSI 総得点においてもキャプテン経験者の平均値の方が14.83点高い結果であった。有意差のある項目においてはすべてキャプテン経験者の方が役職未経験者よりも得点が高いことが明らかになった。また、有意差のあった項目の中で最も平均値が高かったのは親密性得点の18.8点であった。

表9 小学校時のキャプテン経験者と役職未経験者による EPSI の比較

得 点	キャプテンの経験あり			役職の経験なし			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
EPSI 総得点	22	129.5	29.6	84	114.7	21.0	-2.21*
信頼性得点	22	14.5	3.9	84	13.1	3.7	-1.58
自律性得点	22	15.6	6.0	84	14.0	3.4	-1.24
自主性得点	22	14.7	4.4	84	12.9	3.0	-1.83
勤勉性得点	22	16.7	2.5	84	13.9	3.7	-3.34*
同一性得点	22	17.1	5.7	84	15.0	4.2	-1.64
親密性得点	22	18.8	4.3	84	16.6	3.6	-2.38*
生殖性得点	22	15.0	4.3	84	13.2	3.6	-1.98*
統合性得点	22	17.1	4.3	84	16.0	4.2	-1.08

*,p <0.05

② 中学校時の役職経験の有無による比較

中学校時において運動部に所属した学生のうち、キャプテン経験者と役職未経験者との間で比較したところ、8項目において有意な差が見られた。

自律性得点においては運動部経験者の方が1.65点高い結果であった。自主性得点では運動部経験

者の方が 1.99 点高い結果であった。勤勉性得点においては運動部経験者の方が 1.74 点高い結果であった。同一性得点においては運動部経験者の方が 1.49 点高い結果であった。親密性得点においては運動部経験者の方が 1.57 点高い結果であった。生殖性得点においては運動部経験者の方が 2.18 点高い結果であった。統合性得点においては運動部経験者の方が 1.32 点高い結果であった。EPSI 総得点においても運動部活動経験者の方が 12.64 点高い結果であった。有意差の認められた 8 項目すべてにおいて運動部経験者の平均値の方が高いことが明らかになった。

表 10 中学校時のキャプテン経験者と役職未経験者による EPSI の比較

得 点	キャプテンの経験あり			役職の経験なし			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
EPSI 総得点	71	127.9	29.0	232	115.3	22.7	-2.92*
信頼性得点	71	14.3	3.8	232	13.6	3.5	-1.16
自律性得点	71	15.8	5.0	232	14.2	3.7	-2.59*
自主性得点	71	14.8	4.0	232	12.8	3.7	-3.41*
勤勉性得点	71	16.2	4.4	232	14.4	4.2	-2.12*
同一性得点	71	16.9	5.0	232	15.4	4.2	-2.66*
親密性得点	71	18.1	4.2	232	16.5	3.5	-2.08*
生殖性得点	71	14.9	4.2	232	12.8	3.8	-2.84*
統合性得点	71	17.0	4.0	232	15.7	4.0	-0.98*

*,p <0.05

③ 高校時の役職経験の有無による比較

高校時において運動部に所属した学生のうち、キャプテン経験者と役職未経験者との間で比較したところ、生殖性得点の 1 項目のみににおいて有意差がみられ、運動部経験者の方が 1.43 点高い結果であった。

表 11 高校時のキャプテン経験者と役職未経験者による EPSI の比較

得 点	キャプテンの経験あり			役職の経験なし			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
EPSI 総得点	39	120.2	24.6	196	117.3	24.6	-0.68
信頼性得点	39	13.0	4.1	196	13.3	3.5	0.48
自律性得点	39	14.7	4.2	196	14.5	4.0	-0.29
自主性得点	39	13.9	3.7	196	13.3	3.7	-0.83
勤勉性得点	39	15.1	3.7	196	15.1	4.2	-0.02
同一性得点	39	16.4	4.2	196	15.7	4.4	-0.86
親密性得点	39	16.8	4.0	196	16.5	3.6	-0.43
生殖性得点	39	14.6	3.5	196	13.1	3.9	-2.15*
統合性得点	39	15.7	3.7	196	15.6	4.2	-0.11

*,p <0.05

3) 活動の志向別による比較

① 小学校時の活動の志向別による比較

小学校時のスポーツ少年団での活動経験者のうち活動志向が「勝利志向」だったか、「楽しみ志向」だったかの違いによる各項目の平均値を比較したところ、すべての項目において有意な差は見られなかった。

表 12 小学校時の活動志向別による EPSI の比較

得 点	勝利志向			楽しみ志向			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
EPSI 総得点	34	121.6	29.3	21	116.0	25.5	0.72
信頼性得点	34	13.8	4.2	21	13.0	4.6	0.68
自律性得点	34	15.7	5.1	21	15.0	4.3	0.57
自主性得点	34	13.7	4.0	21	12.6	3.7	0.98
勤勉性得点	34	15.1	4.5	21	14.4	3.4	0.64
同一性得点	34	16.2	4.8	21	14.8	4.2	1.08
親密性得点	34	16.9	3.8	21	17.0	4.4	-0.08
生殖性得点	34	14.1	4.4	21	13.0	3.7	0.94
統合性得点	34	16.1	4.9	21	16.3	4.7	-0.13

*:p <0.05

② 中学校時の活動の志向別による比較

中学校時の運動部活動経験者のうち活動志向が「勝利志向」だったか、「楽しみ志向」だったかの違いによる各項目の平均値を比較したところ、2 項目において有意な差が見られた。

勤勉性得点においては運動部経験者の方が 1.86 点高い結果であった。生殖性得点では運動部経験者の方が 2.7 点高い結果であった。有意差の認められた 2 項目どちらも勝利志向の活動経験者の方が高いことが明らかになった。

表 13 中学校時の活動志向別による EPSI の比較

得 点	勝利志向			楽しみ志向			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
EPSI 総得点	134	123.1	26.2	37	115.8	21.9	1.55
信頼性得点	134	13.9	3.9	37	14.3	3.8	-0.55
自律性得点	134	15.2	4.2	37	14.1	3.5	1.56
自主性得点	134	13.9	4.0	37	13.0	3.6	1.33
勤勉性得点	134	15.8	4.6	37	14.0	3.7	2.27*
同一性得点	134	16.5	4.4	37	16.5	4.6	-0.02
親密性得点	134	17.0	3.9	37	16.5	3.6	0.67
生殖性得点	134	14.2	4.1	37	11.5	4.1	3.55*
統合性得点	134	16.5	4.2	37	16.0	4.8	0.66

*:p <0.05

③ 高校時の活動の志向別による比較

高校時の運動部活動経験者のうち活動志向が「勝利志向」だったか、「楽しみ志向」だったかの違いによる各項目の平均値を比較したところ、生殖性得点で有意差が見られ、勝利志向の運動部経験者の方が 2.14 点高い結果であった。

表 14 高校時の活動志向別による EPSI の比較

得 点	勝利志向			楽しみ志向			t 値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
EPSI 総得点	133	122.7	25.5	29	112.8	23.6	1.92
信頼性得点	133	14.0	3.8	29	13.1	4.1	1.12
自律性得点	133	15.0	4.3	29	14.5	3.8	0.66
自主性得点	133	14.0	3.8	29	12.6	4.0	1.75
勤勉性得点	133	15.7	4.2	29	14.3	4.1	1.72
同一性得点	133	16.3	4.4	29	15.2	5.4	1.13
親密性得点	133	17.2	3.9	29	16.4	3.6	0.99
生殖性得点	133	14.1	3.9	29	12.0	3.1	2.76*
統合性得点	133	16.4	4.4	29	14.8	4.3	1.82

*:p <0.05

5. 考察

本研究では、過去の運動部へのかかわりが大学生のアイデンティティに及ぼす影響について、EPSI 得点の結果から検討することを目的とした。その結果、運動部所属の有無による比較において、有意差のあった項目の平均点はすべて運動部へ所属した経験のある学生の方が高いという結果であった。特に今回の結果からは、中学校時に運動部へ所属したかどうか、大学生の EPSI 得点に大きな影響を与えていることが明らかになった。また、小・中・高校時すべての時期で有意差があった項目は生殖性得点であり、運動部へ所属することによる共通の影響と見ることができる。

運動部において各時期にキャプテンを経験した学生と役職を経験していない学生との間で比較検討した結果、有意差のあった項目すべてにおいて、役職経験者の平均値の方が高いという結果であった。特に、中学校時にキャプテンを経験した学生と経験のない学生とのあいだでは 9 項目中信頼性得点を除く 8 項目において有意な差が見られ、キャプテン経験者の平均値が高い結果が明らかになった。また、役職経験の有無についても、運動部経験の有無同様、小・中・高校時すべての時期において生殖性得点に差がみられ、キャプテン経験者の方が有意に高いという結果であった。

運動部での活動志向別による比較では、小学校時の有意差は見られなかったが、中学校時で勤勉性、生殖性得点、高校時で生殖性得点のみに有意な差がみられ、どちらも勝利志向の活動経験者の方が高いという結果であった。

本研究の結果からは、過去の運動部活動経験は大学生のアイデンティティにプラスの影響を及ぼしていることが明らかになった。特にその影響が大きい時期は中学校時でのかかわりであり、学校運動部への所属の有無、役職の経験が多項目にわたり影響を及ぼしていることから、この時期の運動部活動と大学生のアイデンティティとの関連性については今後更に詳細な検討が必要と思われる。

参考・引用文献

- 1) スポーツ白書 ～スポーツが目指すべき未来～ 2011.2 笹川スポーツ財団 pp.94-102.
- 2) 中込四郎・鈴木 壮 運動選手の自我同一性の探究とスポーツ経験 (I)：エリクソンの相互性からみたスポーツ経験の特徴 体育学研究 第 30 巻 3 号 1985 pp.249-260.
- 3) 鈴木 壮・中込四郎 運動選手の自我同一性の探究とスポーツ経験 (II)：競技レベルの低い選手と高い選手の比較 岐阜大学教育学部研究報告 自然科学 9 1985 pp.89-98.
- 4) 鈴木 壮・中込四郎 運動選手の自我同一性の探究とスポーツ経験 (III)：性差の検討 岐阜大学教育学部研究報告 自然科学 10. 1986 pp.61-71.
- 5) 中込四郎・岸 順治・井篁 敬 運動選手の自我同一性の探究とスポーツ経験 — (IV)：「相互性」の程度と対象表象 筑波大学体育科学系紀要 9 1986. pp 21-29.
- 6) 日下裕弘 青少年における「フロー・B 価値体験」と「アイデンティティ」に関する研究 茨城大学教育学部紀要 教育科学 52 2003 pp. 95-113.
- 7) 中西信男、佐方哲彦 EPSI — エリクソン心理社会的段階目録検査 — 上里一郎監修 心理アセスメントハンドブック第 2 版 新潟：西村書店 2001 pp.365-379.